

イデックスオイルレポート ~For a month~

2022年1月5日作成 (株)新出光

【月次概況】

●第1週、12/3のWTI原油は、先週比3.69ドル安の66.26ドルとなりました。新型コロナウイルスの変異株オミクロン株の感染拡大懸念により市場では、経済活動の停滞や移動制限の強化により短期的にエネルギー需要は鈍化するとの懸念が増大し原油は売られました。12月2日、OPECプラスは、閣僚級会合で今年8月から続けている毎月日量40万バレルの増産を来年1月も続けることを決定しました。しかしエネルギー需要が減少した場合には、来年1月の次回会合を待たずに対応する可能性を示唆しました。

●第2週、週末12/10のWTI原油は、先週比5.41ドル高の71.67ドルとなりました。米ファイザー社が同社製ワクチンの3回接種によりオミクロン株でも高い予防効果を期待できることを初期段階の実験で確認できたと発表しました。デルタ株感染拡大時よりも経済的な影響は軽微との楽観的な見方が台頭しエネルギー需要に対する過度な不安も後退し原油は買われました。

●第3週、週末12/17のWTI原油は、先週比0.81ドル安の70.86ドルとなりました。新型コロナウイルスの変異株で従来に比べ感染力が強いとされるオミクロン株の世界的な感染拡大を受け、各国政府が相次いで規制を再強化しています。特にアフリカ南部や英国、デンマークで新規感染者が急増しており、フランスは16日英国からの入国を原則禁止する方針としたほか、イタリアとギリシャも全入国者に陰性証明を義務付けることを決めました。一方、バイデン大統領と面会したファウチ国立アレルギー感染症研究所長は16日、すぐに米国でもオミクロン株が感染の主流になると警告しました。企業や大学が職場復帰の延長やオンライン試験への移行などで対応し、クリスマス休暇に向けた旅行計画を見直す動きが広がる中、先行き不透明感の高まりを嫌気し原油は売られました。

●第4週、週末12/23のWTI原油は、先週比2.93ドル高の73.79ドルとなりました。米エネルギー情報局(EIA)が発表した17日までの米原油在庫は、前週比470万バレル減と減少幅は市場予想の280万バレル減を上回る結果となり需要逼迫懸念が再燃しました。23日米食品医薬品局(FDA)が、米ファイザー社製に続き、メルク社の新型コロナ経口治療薬の緊急使用を許可しました。また英製薬大手アストラゼネカは、オミクロン株に対して、自社製ワクチンの追加接種が有効だとする研究成果を発表しました。これらを受けて新変異種株をめぐる警戒感が和らぎ米株価が上昇し原油も買われました。

12月平均	WTI原油	71.69ドル	前月比	▲6.96ドル	為替 1ドル	114.88円	前月差	▲0.26円
-------	-------	---------	-----	---------	--------	---------	-----	--------

日付	変動幅	変動幅
12/1~12/1	-1.0	-1.0
12/2~12/8	-1.5	-1.5
12/9~12/15	-6.5	-6.5
12/16~12/22	+2.5	+2.5
12/23~12/29	-0.5	-0.5
12/30~12/31	±0	±0

【単位:円/KL】

メニュー価格推移 平水湾内T/S持ち届け (サイト60日)	0.5HPP		ENEOS LS船用燃料油基準価格	
	2021年7-9月C重油決定価格	63,070	65,070	63,070(メニュー)+2,000(プレミアム)
2021年10-12月C重油仮価格	66,800	69,340	66,800(メニュー)+2,540(プレミアム)	
2021年10-12月C重油決定価格	70,020	72,020	70,020(メニュー)+2,000(プレミアム)	
決定価格7-9月比	6,950			

【単位:円/KL】

内航燃料油価格推移	適合油価格	
	2021年7-9月C重油決定価格	A重油 73,300
2021年10-12月C重油仮価格	74,300	
2021年10-12月C重油決定価格	81,700	
決定価格7-9月比	8,400	

CIF価格推移	年/月	9桁速報	原油CIF価格	通関CIF	為替レート	原油CIF価格
			円/kl	ドル/bbl	円/ドル	前月比
	21/11	9桁速報	58,825	82.07	113.95	5,001
	21/12	最終予測	60,035	83.77	113.93	1,210
	22/1	展望	55,446	77.66	113.50	-4,589
	22/2	展望	54,205	76.26	113.00	-1,241

【次世代エネルギー】<伊藤忠エネクス、日本初・カーボンニュートラルGTL燃料を提供 オフ車向け>

伊藤忠エネクスは、建設機械・重機やフォークリフト、発電機などオフロード車両に使用できる軽油代替燃料として、日本で初めて「カーボンニュートラルGTL燃料」の提供を開始すると発表しました。同社は、脱炭素化への継続的な取り組みとして、Royal Dutch Shell(Shell)の子会社であるShell MDS(マレーシア)とカーボンニュートラルGTL燃料の購入契約を締結しました。GTL(Gas to Liquids)は、天然ガス由来の製品で、環境負荷の少ないクリーンな軽油代替燃料です。GTL燃料は、「オフロード」と呼ばれる公道ではない道で使用します、ナンバープレートの付いていない車両用(建設機械・重機、フォークリフトなど)として使用することができます。GTLは、石油由来の製品と同等の性状を保持しつつ、軽油と比較するとCO2排出量を8.5%削減することができます。今回の契約は、伊藤忠エネクスがShellから、GTLの生産・輸送・製造・燃焼の工程を含むライフサイクル全体で発生する温室効果ガスをShellが保有するクレジットで相殺するGTLを購入するもので、このカーボンニュートラルGTLは2021年10月より伊藤忠エネクスの施設(袖ヶ浦アスファルト基地)での使用を開始し、今後は順次販売を進めていきます。

【出典① <https://www.itcenex.com/ja/news/2021/20211111.html>

② https://www.kankyobusiness.jp/news/030124.php?utm_source=mail&utm_medium=mail211116_d&utm_campaign=mail]

【1月価格変動要因】

●需要面:IEAは、2022年の原油需要見通しを日量10万バレル下方修正しました。さらにオミクロン株の急速な拡大によって2022年1~3月についてはさらなる下方修正が懸念されます。

●供給面:OPECプラスは、1/4の会合で2月分も日量40万バレルの増産で合意する見通しです。加えて米国主導の戦略備蓄石油も市場に供給され世界的な原油在庫の増加につながる可能性があります。一方でシェールオイルについては大きく増産する姿勢は見せていません。ただし昨年のようにテキサス州に寒波が襲った場合には、供給が急減する可能性があります。

●在庫面:米国の原油在庫、ガソリン在庫とも過去5年の最低水準を下回るレンジで推移しています。戦略備蓄石油の放出によって改善すると思われませんが厳寒により需要が上振れた場合、相場急騰の可能性もあります。しかし世界的には供給超過に転じるとみられており在庫は積み上がりやすい状況にあります。

●リスク資産:オミクロン株の実態が次第に明らかになり感染力は強いものの重症化率が低いためマーケットは買いで反応し一時期のリスクオフムードは後退し米株の上昇が続いています。利上げに対する警戒感にくすぶりますが、実質金利はマイナスでありリスク資産は高値を維持すると予想されます。

<1月価格見通し> (単位:US/bbl)

	Brent	WTI
High	83	82
Average	77	76
Low	68	67

日付	国	1月経済指標カレンダー	日付	国	1月経済指標カレンダー
4	米	12月ISM製造業景況指数	12	米	12月消費者物価指数(CPI)
5	米	12月ADP雇用統計	14	米	12月小売売上高
5	米	米連邦公開市場委員会(FOMC)議事要旨	26	米	12月新築住宅販売件数
6	米	12月ISM非製造業景況指数	26	米	米連邦公開市場委員会(FOMC)終了後政策金利発表
7	米	12月非農業部門雇用者数変化	26	米	パウエル米連邦準備理事会(FRB)議長定例記者会見
7	米	12月失業率	28	米	10-12月期 四半期雇用コスト指数
7	米	12月平均時給	31	欧	10-12月期 四半期域内総生産(GDP、速報値)

当レポートは、情報提供のみを目的としておりますのでお取引の判断については、御自身で行って頂く様お願い致します。